

カッター一部全国大会優勝 4年ぶり2度目

7月23・24日に愛知県立三谷水産高等学校を主幹校として、全国カッターレース大会が行われました。

艇指揮 佐久間さんの感想です

私たちは全国一位の端艇部になることができました。全国大会の約1ヶ月前に開催された関東・東海地区大会では、最下位ととても悔しい結果に終わりました。この結果をバネに練習をより気持ちを込めて行いました。



7月22日蒲郡に着き、公開練習をしました。その時の漕ぎが地区大会の時の漕ぎと似ていて、また負けてしまうのではないかと不安になりました。

大会初日、この日はとても風が強く予定通りに進まず、待ち時間が長くなり、その間に気持ちを切らさないようにお互いに声を掛け合ったり、喝を入れたりして過ごしました。1ヶ月前の三谷水産高校とのレース気合は十分1レース目の後にしたミーティングでの反省を意識して万全の状態に挑みました。結果は2位でした。互角の漕ぎをしていました。強いて言うなら回頭をもっと小回りにしたら差は縮まったと思いました。

大会2日目、風は昨日と比べてだいぶ弱まりましたがその分暑かったです。準決勝では負ける気なんてなく一位でゴールしました。

決勝は今まで乗ったことない焼津水産高校の艇でした。三谷水産高校に勝つことの他に6分を切ると言う目標もありました。漕ぎ手は気合が入りすぎるとオールがバラバラになる傾向があったので、私は艇指揮として正確なピッチでみんなに聞こえるように意識しました。この課題は全員の共通認識だったので声をかけ合いながら揃えました。気合も十分、回頭も小回り、艇速が落ちがちなダッシュ後も全国優勝を胸に強く漕ぎ続けました。結果5分58秒、全国一



位。ゴールした瞬間涙が溢れる人や叫んでいる人、それぞれが喜び、讃えあっていました。

負け続けていた三谷水産高校に決勝で勝てた要因はいくつかあると思います。一つ目は、1000m 漕ぐにあたって一人一人の気持ちが強くなったことです。二つ目はチームが一つになれたことです。2・3 年生間の壁だったり、問題をよく起こす人たちとの考えの違いが大会前の合宿で無くなったり、お互いを理解し合えたように思います。三つ目はレース後にミーティングをしたことだと思います。次のレースで最高の漕ぎをするために小さなことでも言える場がありました。いつもはあまり喋れない女子 2 人の意見もちょうと交えて意見交換できたのが良かったと思います。また、そこで出た改善点を次のレースに活かしたことも挙げられます。最後に西山先生をはじめとした顧問の先生方がいなかったらこの全国優勝はなかったと思います。本当にありがとうございました。



潜水部 全国大会 男女総合の部優勝

7 月 27 日から 29 日に北海道小樽水産高等学校を主幹校としてダイビングの技能コンテストが行われました。男女 2 組ずつ出場しました。競技としては、50m フリッパー・セッティング技能・レスキュー・中性浮力・オクトパスブリージング、フリッパーリレーがあり、そのそれぞれで上位の入賞をしました。部長の金子君の感想を掲載します。

【コロナウイルスを乗り越えて】 3年B組 金子君

私たち潜水部は北海道・小樽市で行われた第 25 回全国水産・海洋高等学校ダイビング技能コンテスト全国大会に出場しました。大会では全国の水産高校の選手が集まり、普段の生活では感じることをできない緊張感を体験したり、他の学校の技術力の高さに驚きました。

3 年生は最初で最後の大会となり悔いの残らないよう全力を尽くして大会に臨みました。コロナウイルスの影響で練習時間が限られる中、より洗練された技術を得るために日々練習を重ねました。初期の練習ではバディごとで息が合わず満足した結果が得られないこともありましたが、練習を重ねるにつれてバディとの信頼度が増しお互いに技術を磨き上げていくことができました。そして大会本番では自分たちの実力を十分に発揮できた人もいれば本番でうまく



いかず悔しさが残る人もいました。しかし目標に向かって全力で努力してきたことは大会の結果がどうであれ変わりません。目標に向かって努力してきたからこそ得られる嬉しさや悔しさが、次へ繋げていける経験になると思います。

私は今回の大会練習を通じてダイビングの技術だけでなく仲間と切磋琢磨し目標に挑戦することの大切さを学ぶことができました。そして最終的に総合の部での優勝や各個人種目での優勝や入賞、そしてベストダイバー賞など多くの賞を取れたのは潜水部のみんなの支えがあったり、練習や遠征などの多くの場面で支えてくださった今西先生や海洋科の先生方のおかげなので感謝の気持ちを忘れずにしていこうと思います。

15期潜水部はコロナウイルスの影響で1.2年生の時の大会が全て中止になったり、部活ができない時期もありましたがこうして最後に輝かしい結果を残すことができ、高校生活最後の充実した夏休みを過ごすことができました。



釣り部 バリバスカップ 2022 スポニチ「U—18 選手権 相模湾 LT (ライトタックル) 五目釣り大会」優勝 2年生 山岸君の感想です

私は今年の夏バリバスカップ 2022 スポニチ U18 選手権、釣り大会に初めて参加しました。昨年は新型コロナウイルスにより中止となった釣り大会でしたが今年は参加することができ、うれしい気持ちとほっとする気持ち

がありました。

7月28日 相模湾



の会場へ向かいました。釣り部がある高校なんて数少ないだろうと思っていたので、参加者が100人を超えていると聞いたときは大会の規模の大きさにとても驚きました。またそれと同時に対戦者でもある人たちに負けたくないという気持ちもわかりました。いつもとは全く違う状況で慣れないことがありながらも一匹でも



多く釣りあげようと頑張りました。釣りではサバやワカシなどが多くかかり狙いのアジがなかなか釣れず、ほかの船では釣れているのか、自分たちは釣ることが出来るのかと不安な気持ちも多くありました。そんななか一年生のメンバーが 30cm 超えのマアジを釣り上げ、自分たちにもマアジが掛かり始め、優勝候補に上がったと聞き一気にテンションが上がりました。最終的にはメンバー全員がマアジを釣り上げることができ、計量したところ初出場にして優勝することができました。当日は日差しも強くまた波も高かったので船酔いもありましたが、最後まで楽しく釣りをすることが出来ました。

今はコロナウイルスにより行事縮小や大会中止などが多く中学、高校と大会もなくなりつつありましたが、今回バリバスカップに参加することができ、さらに優勝まで飾れたことに心からうれしいと感じました。来年もまた大会に参加出来たら再び優勝を飾れるように頑張りたいです。

郷土芸能部 総文連東京大会2022に運営協力

8月2～4日に全国の文科系クラブの全国大会である「総合文化祭」が東京で行われました。本校は文化連盟に郷土芸能部が加盟しており、運営協力と東京都のメンバーが集まっての合同演奏に2名が参加しました。

合同演奏に参加した3年生笹口君の感想です

8月1～4日はコロナ渦で連日の猛暑でしたが、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。スタッフという形で芸能部門の全国大会に携われたことを誇りに思います。スタッフという形で来客のご案内や警備を行うことで、「この顔の人は今どこに行きたそう」などもつかめるようになり、最終日はすごいノリノリでやっていました。

合同演奏に関しては、他の都立の高校とともに総文祭の大締め目の練習を行うために、帰省する度に都立白鷗高校や深沢高校に行き練習してきました。横打ちというパートを割り当てられたものの、僕たちが叩いた“大喝采“は普段大島で行う”御神火太鼓“と比べると、金物や大中小の太鼓や担ぎ太鼓まで幅広い楽器が一つの演目に使用され、一見バラバラに聴こえていてもどこか輪のようなものを感じました。

指導して下さった黒流（クロナ）さんが、本番開始直前に「失敗してもいい全力で楽しもう！！」と言ってくださり、不安や心配が吹き飛びました。演奏はあっという間に終わってしまいましたが全力で楽しめました。

普段は練習できない、いろいろな打楽器が飛び交う中で音に合わせるという経験をする中で、確実にスキルが一步進んだと感じています。楽しかったです。ありがとうございました。

